

ニューズレター 2012 年度第 1 号

日本音楽表現学会 2012 年 7 月 31 日発行

日本音楽表現学会第 10 回 (Blue Valley) 大会特集

目	次
【巻頭言】 新任のごあいさつ 安藤 政輝 2
日本音楽表現学会第 10 回 (Blue Valley) 大会報告 3
Blue Valley 大会を終えて 藤原 嘉文 3
大会参加者の声 宮本 賢二郎 3
2012 年度総会報告 4
大会スナップ集 11
新設「研究サロン」参加のお誘い 16
【書籍紹介】『松村禎三 作曲家の言葉』(春秋社 刊) について 阿部 亮太郎 18
新入会員紹介 19
日本音楽表現学会後援コンサート等情報 20
会員による CD リリース 21
会員による新刊 21
教員公募 21
事務局からの重要なお知らせとお願い 22
各種書式 23
日本音楽表現学会第 11 回 (イーハトーヴ) 大会のご案内 24
2012 年度役員一覧・編集後記 24

日本音楽表現学会



所在地：〒 616-8025 京都市右京区花園土堂町 1-6

事務局：〒 520-0862 大津市平津 2-5-1 滋賀大学教育学部杉江研究室気付

Tel. & Fax. 077-537-7792

E-mail: music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/>

年会費 (5,000 円) の振り込み

→郵便振込口座：01370=6=78225 日本音楽表現学会

新任のごあいさつ

日本音楽表現学会会長 安藤政輝（生田流箏曲）

2012年7月1日に会長に就任いたしました。これから2年間、微力ではありますが、皆様のご協力を得て、学会の発展・会員のサポートに力を尽くしていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

ホームページでも述べましたが、本学会では、音楽表現が個人の楽しみ域を出て個人研究となり、さらにそれらが交流・切磋琢磨・合体して、幅広く奥行きと継続性のある体系的な学術研究となることを目指しています。

近年、会員数も増加し、財政基盤も安定してまいりました。これも、会員一人ひとりの活動の成果の表れと、感謝しております。発足当時、役員が何年分かの会費を先払いして運営費に充てていたことを考えると、感慨深いものがあります。

会員の専門分野も、演奏、作曲、メディア・アート、マネージメント、音楽表現に関する音楽学／教育など多方面にわたっており、また、設立以来毎年全国各地において持ち回りで行われてきた大会も、運営にあたられてきた方々のおかげで年々規模が大きくなり内容も充実してきていることは、大変喜ばしいことです。

第11回にあたる「イーハトーヴ大会」は、2013年6月8日（土）・9日（日）に盛岡市で開催されます。一人でも多くの方がこの大会に参加されることを願ってやみません。とくに、今年からいくつかの分野ごとに開設した、類似の研究テーマを持つ人たちが集まって気軽に雑談を交わす「研究サロン」の成果がどのような形で芽を出すか、楽しみにしております。

ここで袴を脱ぎまして、最近は新入会の方も多いため、自己紹介などを。

7歳の時に故宮城道雄先生に箏の手ほどきを受けました。1972年より29回のリサイタルを開催。そのうち、1990年からは350曲余といわれる宮城道雄の全作品連続演奏を始めました。あと7～8回で終わると思うのですが、それまで頑張らなくては、と老骨に鞭を打っています。

「箏を担いで世界を回りたい」というのが宮城先生の夢でしたが、60年も前のことですから、昨今のよう気軽に海外へ出かけることもままならず、たった1回しか海外（フランスとイギリス）での演奏はありませんでした。私の夢も先生と同じで、国の内外を問わず、一人でも多くの方に箏の音楽を聴いていただきたい。そして、宮城道雄の音楽を正しく広く伝えていきたいというものです。今年3月に東京芸術大学を退職しましたが、演奏・講習、CD・楽譜の制作に相変わらず走り回っています。

最後に、いつでも、どのような些細なことでも気軽にご意見をいただき、よりよい学会にしていきたいと思っております。事務局へ、あるいは個人的にメールをお寄せください。



日本音楽表現学会第10回 (Blue Valley) 大会報告

1) Blue Valley 大会を終えて

大会実行委員長 藤原 嘉文 (作曲)

Blue Valley 大会には皆さんお集まり戴き、ありがとうございました。記念すべき第10回大会を無事開催できましたこと、実行委員一同感謝しております。

今大会は、学会員134名に当日会員30名、学生会員17名、合わせて181名の参加を得ました。都心から西へ100kmと近い割には、今ひとつ遠いイメージがある甲府。しかし、そんな予想を吹き飛ばすほどたくさんの方々にご参集いただき、本当にありがたく思います。また、分科会においてもたくさんの方々にご発表して戴きました。当初予定していた5会場では収まりきれず、第1日目には6会場設けるなど嬉しい悲鳴でしたが、それぞれ活発な発表や論議が行われ、おかげさまで盛会となりました。今はホッとしております。

振り返ってみると今年の甘露大会の際、はからずも大会開催打診を戴いたのが始まりでした。その時は正直なところ我々で出来るのだろうかと思っておりました。2月に会長と事務局長が打ち合わせに甲府までおいでになり、それからの実作業は時間との戦い。慣れないこともあり右往左往でしたが、本部の皆さんの周到な作業や多くのサポートを得て、何とかこぎ着けたというのが本当のところでした。しかし本番(当日)になると、それまでの嵐のような日々が嘘のように計画通り『ただ一切は過ぎてゆき』、終わってみれば意外とあっけない(?)。しかしこの感覚は、演奏会とどこか似かよったものだと思います。長い長い準備(企画や練習)の末に迎える本番は一瞬です。この一瞬のパフォーマンスのために全力を傾注する……。こんなことを考えながら、少し大会の余韻に浸っておりました。ともあれ、天候にも恵まれ、事故も無く、また皆さんの笑顔に包まれながら大会を終えることができ、今はやらせていただいて良かったと実感しております。

本学会は「音楽」そのものを本音で語り合える

素晴らしい場であることを再認識しました。このことは当たり前のように、他の学会では意外とできないと聞きます。懇親会での交流や盛り上がりも、本学会独自の素晴らしい一面です。来年の盛岡でのイーハトーヴ大会が、今から楽しみです。皆さんのご協力に心から感謝致します。

最後に、スタッフとして手伝ってくれた学生たちにも大きな拍手を送りたいと思います。この経験はきっと彼らの大きな糧になることでしょう。

2) Blue Valley 大会に参加して

—柔軟性と創造性に富んだ日本音楽表現学会—

宮本 賢二郎 (音楽教育)

今年、私自身は2度目の表現学会の大会参加となりました。オープニングに続いて大場俊一氏のモーツァルトの講演と演奏、圧倒されました。ピアノという楽器が、本当に歌うことのできる楽器だということを改めて教えられた思いです。私自身の発表は、音楽教育の認知能力や発達についての効果や、モーツァルト効果論争についてでしたが、情報量が多すぎて、大いに反省しました。

表現学会は実際に演奏、あるいは作曲など音楽の実践をされる方の参加が多く、どの発表も大変興味深いものでした。音楽実践・音楽教育・音楽学といったジャンルが自由に交わる場はここにはないといってもよいのではないのでしょうか。こうした利点を生かすためにも、今年から創設されるサロンは画期的な制度であると思います。学会という仕組みが、硬直したものではなく、柔軟性に富み、創造的な場でありえることを証明する試みとなることを願っています。またサロンのような独立した動きについて、研究内容の情報交換ができると思います。図らずも同じような内容となっていたり、複数のテーマに共通するさらに大きなメタテーマが見えてくることもあるでしょう。サイトを利用した活動状況報告などの仕組みを考えても良いのではないかと思った次第です。来年の大会も楽しみにしています。

3) 2012 年度総会報告

日 時：2012 年 6 月 13 日（土）16:00～16:50

場 所：山梨大学甲府キャンパスM号館1F M12 教室

出席者数：84 名、委任状 71 通 合計 155 名（定足数：会員総数 384 名の 1/3 以上）によって総会は成立。

記 録：谷村宏子

1. 開会の辞：杉江淑子事務局長

2. 議長選出：会員の総意によって以下が選出された。

議長：長谷川正規 書記：谷村宏子

3. 報 告：総会資料に基づき以下の事項が報告され、承認された。

(1) 2011 年度事業報告（2011 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日）

杉江事務局長より、【資料 1】に基づき報告があり、承認された。

【資料 1】2011 年度事業報告（2011 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日）

1. 第 9 回（甘露）大会 2011 年 6 月 11 日（土）～12 日（日） 於：上越教育大学
 2. 2011 年度理事会 第 1 回 2011 年 6 月 11 日（土）10:00-12:30 於：同上
第 2 回 2011 年 11 月 27 日（日）10:00-16:40 於：ウイングス京都
第 3 回 2012 年 3 月 31 日（土）10:00-16:30 於：京都市北文化会館
その他 ネット会議
最終回 2012 年 6 月 23 日（土）10:00-12:00 於：山梨大学甲府キャンパス
 3. 学会誌編集委員会 第 1 回 2011 年 6 月 11 日（土）10:00-12:00 於：上越教育大学
第 2 回 2011 年 8 月 2 日（火）13:00-19:00 於：スタジオ安藤
第 3 回以降 ネット会議と編集作業等
 4. 選挙管理委員会 第 1 回 2011 年 6 月 12 日（日）12:30-13:30 於：上越教育大学
第 2 回 2012 年 2 月 12 日（日）10:00-14:00 於：神戸大学発達科学部
第 3 回 2012 年 3 月 25 日（日）13:00-18:00 於：神戸大学発達科学部
その他 ネット会議
 5. 学会誌『音楽表現学』Vol. 9 発行 2011 年 11 月 30 日（水）
 6. ニュースレター発行 No.1 2011 年 7 月 31 日（日）
No.2 2011 年 11 月 30 日（水）
No.3 2012 年 3 月 31 日（土）
 7. 後援 30 件（目標値 25 件）
 8. 会員数 368 名（2012 年 3 月 31 日現在）（目標値 375 名）
-

(2) 第 9 回（甘露）大会決算報告

谷口雄資会計担当理事より、【資料 2】に基づき報告があり、承認された。続いて、第 9 回（甘露）大会の後藤 丹実行委員長より、会員に対する謝辞が述べられた。

【資料2】

第9回（甘露）大会決算報告

	費 目	金 額 (円)	備 考
【取 入】	大会参加費	565,000	学 会 員：5,000 円×103 名 = 515,000 円 当日会員：3,000 円×のべ16 名 = 48,000 円 学生会員：2,000 円×のべ1 名 = 2,000 円
	『大会要項』販売	2,400	1 部 300 円 × 8 冊 = 2,400 円
	広告・ブース料	210,000	
	懇親会費	459,000	5,500 円×78 名 + 30,000 円 (団体参加費)
	合 計	1,236,400	
【支 出】	基調講演講師謝礼	100,000	交通・宿泊費を含む
	学生アルバイト	157,500	1 時間単価 750 円
	会議費・アルバイト昼食含む	47,400	
	会場費	1,235	共催のため光熱費のみ
	印刷費『大会要項』	257,134	
	通信費	54,430	『大会要項』発送費 39,680 円 その他 発送費 14,750 円
	楽器調整費	0	
	文具費	48,045	
	懇親会費	339,338	
	雑費	3,036	振込手数料を含む
	小 計	1,008,118	
	一般会計への繰り入れ	228,282	
	合 計	1,236,400	

(3) 2011 年度会計報告・監査報告

吉永誠吾会計担当理事より【資料3】に基づき報告があり、承認された。また、長岡功監事より、2011 年度会計処理が適正に行われており、会計報告に問題がないことが報告された。

【資料3】2011 年度会計報告・監査報告

	費 目	決 算	予 算
【取 入】	学会年度会費 (延べ 365 名×5,000 = 1,825,000) 親族割引適用 4 名×4,000 = 16,000	1,841,000	1,675,000
	賛助会員会費	5,000	5,000
	学会誌売り上げ 『音楽表現学のフィールド』売り上げ	92,290	60,000
	利息	654	1,000
	大会から繰り入れ	228,282	150,000
	その他 (未処理金)	14465	0
	小 計	2,181,691	1,891,000
	前年度繰越	1,060,488	1,060,488
	学会基金	2,500,000	2,500,000
	合 計	5,742,179	5,451,488

【支 出】	『音楽表現学』	作成費	597,270	600,000
	ニューズレター	作成費	32,405	30,000
	名簿	作成費	0	0
	理事会	会議費	25,285	20,000
		交通費	243,460	150,000
	学会誌編集委員会	会議費	0	15,000
		交通費	190,340	150,000
	論文集	出版補助・購入費	18,840	0
	選挙管理委員会	会議費	3,536	10,000
		交通費	18,180	20,000
		郵送費	34,514	50,000
	大会関連費		34,100	40,000
	通信費		139,180	170,000
	払込手数料		5,140	20,000
	事務費		196,397	200,000
	雑費		1,908	120,000
	予備費		0	100,000
		小 計	1,540,555	1,695,000
		次年度繰越	1,201,624	756,488
		学会基金	3,000,000	3,000,000
	合 計	5,742,179	5,451,488	

以上の通り報告いたします。

2012年6月5日

谷口 雄資 

吉永 誠吾 

監査の結果、以上に間違いありません。

2012年6月20日

長岡 功 

海津 幸子 

(4) 年会費納入状況：

吉永誠吾会計担当理事より【資料4】に基づき報告があり、承認された。なお、年会費の振込みの際には、氏名を楷書で書き、読みにくい漢字にはフリガナをつけていただきたいという要請があった。

【資料4】

年会費納入状況

(2012年3月31日現在)

会員数	未納状況	納入額
368名 (新入会員 41名)	2009年度～ 5名 2010年度～ 13名 2011年度 27名	年会費 5,000円×のべ365名= 1,825,000円 親族割引適用 4,000円×4名= 16,000円 総計 1,841,000円 振込手数料： 520円 (80円×2名+120×3名)

*退会者 8名

(5) 2012-13年度会長・理事選挙結果報告

坂東肇選挙管理委員長より【資料5】に基づき報告があり、承認された。なお、安藤政輝新会長欠席のため、杉江淑子事務局長によって、会長就任挨拶文が代読された。

2012-2013 年度会長・理事選挙結果報告書

2011 年度選挙管理委員会

委員長 坂東 肇 印

委員 中 磯子 印

” 井上 朋子 印

2011 年度選挙管理委員会では、2012-2013 年度会長・理事選挙の開票を 2012 年 3 月 25 日（日）に神戸大学発達科学部音楽棟において行いました。その結果をここに報告いたします。

記

1. 投票者総数： 188 票
2. 有効投票数： 187 票
3. 無効票： 1 票
4. 有効投票における各候補者の得票数：

役 職	氏 名	得票数
会 長	安藤 政輝	181
理 事	奥 忍	182
”	北山 敦康	173
”	後藤 丹	175
”	小畑 郁男	169
”	杉江 淑子	182
”	吉永 誠吾	172

以上。

(6) 2012-13 年度会計監事の依嘱について

奥 忍会長より【資料6】のように、2012-2013 年度会計監事として海津幸子会員(2 期目)と谷口雄資会員(1 年目)に依嘱することが報告され、異議なく承認された。

【資料6】2012-13 年度会計監事 海津 幸子、谷口 雄資

(7) 東日本大震災への対応や支援について

杉江淑子事務局長より【資料7】に基づき以下の報告があった。

【資料7】 東日本大震災への対応や支援

- ・支援申請 1 名 年会費 1 年分を免除
 - ・書籍等青空市場 500 円 × 2 名 + 1,000 円 × 1 名 = 2,000 円
- 合計 2,000 円を「東日本大震災義援金」として社会福祉法人中央募金会に日本音楽表現学会名で寄付した。

(8) 日本学術振興会「育志賞」推薦について

杉江淑子事務局長より、【資料8】に基づき、以下の報告があった。

【資料8】学会ニューズレター 2011 年度 No.3 で広報、自薦・他薦のいずれもなかったため、「該当者なし」と回答した。

(9) 学会HPについて

北山敦康総務担当理事より、【資料9】に基づき説明があり、今年度の名簿作成に際して、会員全員が「メールアドレス」による登録を行ってほしいとの要請があった。

【資料9】杉江事務局長と北山理事の責任のもとで事務局長付の近藤晶子参事が実務を担当。現在、新たにメールアドレス（ウェブ上のテンプレートによるメール送信システム）を用いて、学会後援の「コンサート等情報の収集」と会員からの「住所変更の連絡」ができるよう準備中。完成すれば、会員のコンサート等情報は、より整理された形で連絡可能になる。また、次回の名簿作成は、このフォームによって統一的な住所管理を行うとともに住所変更の連絡と事務処理の合理化・適正化を進め、学会運営をよりスムーズなものにすることを目指している。

(10) その他 なし。

4. 協 議

(1) 2012 年度事業計画について

杉江淑子事務局長より【資料 10】に基づき、提案があった。拍手をもって異議なく承認された。

【資料 10】 2012 年度事業計画 (2012 年 4 月 1 日～ 2013 年 3 月 31 日)

1. 第 10 回 (Blue Valley) 大会	2012 年 6 月 23 日 (土) ～ 24 日 (日)	於：山梨大学甲府キャンパス
2. (2011 年度理事会) 最終回	2012 年 6 月 23 日 (土) 10:00-12:00	於：同上 (新理事見学)
2012 年度理事会 第 1 回	2012 年 6 月 24 日 (日) 17:00-18:30	於：同上
第 2 回	2012 年 12 月 1 日 (土) 10:00-17:00	於：未定
第 3 回	2013 年 3 月 30 日 (土) 10:00-17:00	於：未定
その他	ネット会議	
3. 学会誌編集委員会 第 1 回	2012 年 6 月 23 日 (土) 10:00-12:00	於：山梨大学甲府キャンパス
第 2 回	2012 年 8 月	於：未定
第 3 回以降	ネット会議と編集作業等	
4. 学会誌『音楽表現学』Vol.10 発行	2012 年 11 月 30 日 (金)	
5. ニュースレター発行 No.1	2012 年 7 月 31 日 (火)	
No.2	2012 年 11 月 30 日 (金)	
No.3	2013 年 3 月 31 日 (日)	
6. 会員名簿発行	2012 年 11 月 30 日 (金)	
7. 後援	30 件	
8. 会員数	400 名	

(2) 第 10 回 (Blue Valley) 大会予算について

吉永誠吾会計担当理事より【資料 11】に基づき提案があり、承認された。奥 忍会長より山梨大学の規定に伴い、会場使用料およびピアノ使用料などの予算が本大会では組みこまれているという補足説明があった。

【資料 11】 第 10 回 (Blue Valley) 大会予算

	費 目	金 額 (円)	備 考
【収 入】	大会参加費	760,000	学 会 員：5,000 円×130 名= 650,000 円 当 日 会 員：3,000 円× 30 名= 90,000 円 学 生 会 員：2,000 円× 10 名= 20,000 円
	広告・ブース料	200,000	
	懇親会費	480,000	6,000 円×80 名
	合 計	1,440,000	
【支 出】	基調講演講師謝礼	100,000	交通・宿泊費を含む
	シンポジスト交通費	0	
	会場使用料	72,000	
	ピアノ使用料	99,750	運搬・調律代を含む
	学生アルバイト謝金	160,000	@800 円×200h
	学生アルバイト昼食代	25,600	
	大会事業経費	73,650	参事宿泊費 (4 名× 2 泊) 他
	会議費	24,000	理事会・編集委員会・実行委員会・参事昼食代 (1 日目のみ) @ 800 円× 30 名
	印刷費	280,000	『大会要項』、ちらし、大会資料
	通信費	55,000	『大会要項』 発送費 40,000 円+その他 15,000 円
	文具費	30,000	
	懇親会費	480,000	
	雑費	40,000	
	合 計	1,440,000	

(3) 2012 年度予算

吉永誠吾会計理事より【資料 12】に基づき提案があり、異議なく承認された。

【資料 12】 2012 年度予算

【収 入】	費 目	2012 年度予算	[参考] 2011 年度	
			決 算	予 算
	学会年度会費 (380 名 × 5,000 = 1,900,000)	1,900,000	1,841,000	1,675,000
	賛助会員会費	5,000	5,000	5,000
	学会誌売上	60,000	92,290	60,000
	利息	1,000	654	1,000
	大会からの繰り入れ	200,000	228,282	150,000
	その他 (雑収入)	0	14,465	0
	小 計	2,166,000	2,181,691	1,891,000
	前年度繰越	1,244,744	1,060,488	1,060,488
	学会基金	3,000,000	2,500,000	2,500,000
	合 計	6,410,744	5,742,179	5,451,488
【支 出】	『音楽表現学』 作成費	600,000	597,270	600,000
	ニューズレター 作成費	30,000	32,405	30,000
	名簿 作成費	20,000	0	0
	理事会 会議費	20,000	25,285	20,000
	交通費	250,000	243,460	150,000
	学会誌編集委員会 会議費	15,000	0	15,000
	交通費	200,000	190,340	150,000
	論文集 出版補助・購入費	0	18,840	0
	選挙管理委員会 会議費	0	3,536	10,000
	交通費	0	18,180	20,000
	郵送費	0	34,514	50,000
	大会関連	40,000	34,100	40,000
	通信費	170,000	139,180	170,000
	払込手数料	5,000	5,140	20,000
	事務費	200,000	196,397	200,000
	雑費、参事交通費等	120,000	1,908	120,000
	予備費	100,000	0	100,000
	小 計	1,770,000	1,540,555	1,695,000
	次年度繰越	1,140,744	1,201,646	756,488
	学会基金	3,500,000	3,000,000	3,000,000
	合 計	6,410,744	5,742,179	5,451,488

* 年度会費収入予算 (380 名) は 2012 年 5 月 31 日現在の会員数で算定している。

(4) 日本音楽表現学会「会則」の改正について

奥 忍会長から【資料 13】に基づき改正の理由についての説明があり、承認された。

【資料 13】 日本音楽表現学会「会則」の改正について

改正 (新)	現行 (旧)
第三章 組織および運営 第 9 条 本会に次の役員をおく。 会長 1 名 副会長 2 名 事務局長 1 名 理事 5 名 会計監事 2 名 2 会長, 副会長, 事務局長, 理事は理事会を構成する。	第三章 組織および運営 第 9 条 本会に次の役員をおく。 会長 1 名 副会長 2 名 (うち 1 名は事務局長) 理事 4 名 会計監事 2 名 2 会長, 副会長, 理事は理事会を構成する。

<p>第10条 役員の仕事は次の通りとする。</p> <p>(1) 会長は、本会を代表し、会務を統括する。</p> <p>(2) 副会長は、会長を補佐する。</p> <p>(3) <u>事務局長は、学会運営の実務を統括する。</u></p> <p>(4) 理事は、本会の管理・運営にあたる。</p> <p>(5) 会計監事は、本会の会計を監査する。</p> <p>第11条</p> <p>(2) 副会長、事務局長および理事は、まず候補者8名を正会員の選挙によって選出する。次に、<u>当選者の互選によって、内2名を副会長に、1名を事務局長に選出するとともに、5名の理事の担当を決定の上、総会において報告する。</u></p>	<p>第10条 役員の仕事は次の通りとする。</p> <p>(1) 会長は、本会を代表し、会務を統括する。</p> <p>(2) 副会長は、会長を補佐する。</p> <p>(3) 理事は、本会の管理・運営にあたる。</p> <p>(4) 会計監事は、本会の会計を監査する。</p> <p>第11条</p> <p>(2) 副会長および理事は、<u>まず候補者6名を正会員の選挙によって選出する。次に、候補者の互選によって、内2名を副会長に、4名を理事に選出し、総会において報告する。</u></p>
<p>附則</p> <p>5. <u>2012年6月23日改正。</u></p>	<p>附則</p>

(5) 日本音楽表現学会「選挙規定」の改正について

奥 忍会長から【資料14】に基づき改正の理由についての説明と提案があり、承認された。

【資料14】 日本音楽表現学会「選挙規定」の改正について

改正 (新)	現行 (旧)
<p>3. <u>投票権者は、選挙管理委員会指定の投票用紙を用いて、定められた期日までに委員会に到着するように投票しなければならない。理由の如何を問わず、代理投票は認められない。</u></p> <p>4. <u>候補者が定数を超える場合には、投票用紙には、定められた人数以内の被選挙人名を記入するものとし、これを超えて記入した場合は全部無効とする。</u></p> <p>5. <u>候補者が定数と同数の場合には信任投票とし、投票用紙に記載された候補者名簿の信任する被選挙人の氏名の上に○印を記入するものとする。</u></p> <p>6. <u>投票用紙の記載が不明確な票については、選挙管理委員会が有効か無効かの判定を行う。</u> (以下、番号を繰り下げる)</p>	<p>3. 投票権者は、<u>選出しようとする者の氏名を</u>選挙管理委員会指定の投票用紙に自ら記入し、これを定められた期日までに委員会に到着するように送付しなければならない。理由の如何を問わず、代理投票は認められない。</p> <p>4. 投票用紙には、定められた人数以内の被選挙人名を記入するものとし、これを超えて記入した場合は全部無効とする。</p> <p>5. <u>被選挙人名の記載が不明確な票については、選挙管理委員会が有効か無効かの判定を行う。</u></p>
<p>附則</p> <p>5. 本規定は2012年6月23日から実施する。</p>	<p>附則</p>

(6) 『音楽表現学』「投稿規定」の改正について

伊野義博編集委員長から【資料15】に基づき改正の理由についての説明と提案があり、承認された。

【資料15】 『音楽表現学』「投稿規定」の改正について

改正 (新)	現行 (旧)
<p>4. 投稿要領</p> <p>(2) 原稿の形式および分量。</p> <p>原著論文, 評論論文:20 ページ以内 (図表等を含む)</p> <p>研究報告:10 ページ以内 (図表等を含む)</p> <p>寄書, 展望, 解説:4 ページ以内 (図表等を含む)</p> <p>同 第2パラグラフ</p> <p>ワープロ原稿を原則とし, A4 版縦置き, 横書きとする。字数は、日本語の場合は1 ページ <u>2300 字程度</u>とする。欧文の場合は1 ページあたり概ね1000 語を目安とする。</p>	<p>4. 投稿要領</p> <p>(2) 原稿の形式および分量。</p> <p>原著論文, 評論論文:20 ページ以内</p> <p>研究報告:10 ページ以内</p> <p>寄書, 展望, 解説:4 ページ以内</p> <p>同 第2パラグラフ</p> <p>ワープロ原稿を原則とし, A4 版縦置き, 横書きとする。字数は、日本語の場合は1 ページ <u>2352 文字を標準</u>とする。欧文の場合は1 ページあたり概ね1000 語 (2 段組, 各段 56 字 ×42 行) を目安とする。</p>

日本音楽表現学会第 10 回 Blue Valley 大会スナップ集

ここから p.14 まではカラー写真の頁です。

<p>同 第6パラグラフ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図および表には必ず番号とタイトルをつける。なお、譜例、図版、図表については<u>精細なデータを別添すること。縮小作業は印刷所が行うのでサイズに関係なくオリジナルのデータを提出すること。</u>楽譜の全曲掲載は原則として認めない。 <p>(3) 原稿は、コピー <u>8部</u>を提出し、・・・</p>	<p>第6パラグラフ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図および表には必ず番号とタイトルをつける。なお、譜例、図版、図表、<u>及び文中の文字以外の諸記号、罫線、楽譜等は提出されたものをそのまま写真製版するので、白地の紙に黒インクまたはそれに類するもので丁寧に書くこと。</u>縮小作業は印刷所が行うのでサイズに関係なくオリジナルを提出すること。また、その所要スペースを概算し、<u>本文原稿の挿入すべき箇所に該当するサイズに縮小したコピーを貼付すること。</u>これらについては<u>段抜きも可とする。</u>楽譜の全曲掲載は原則として認めない。 <p>(3) 原稿は、コピー <u>7部</u>を提出し、・・・</p>
--	--

(7) 研究サロン新設について

奥 忍会長より、学会 10 周年を記念して立ち上げる「研究サロン」の新設の趣旨と進め方について、【資料 16】に基づき説明があり、拍手をもって承認された。また、北山敦康世話係より会員からの研究テーマの一例が紹介された。。さらに、中村隆夫会員から「ソルフェージュの教え方」についての共同研究を立ち上げたいという提案がなされ、北山敦康前提的世話係から A から E 以外の研究テーマについても立ち上げを歓迎する方針が述べられた。

【資料 16】 学会 10 周年記念「研究サロン」新設について

<p>学会では、設立 10 周年を記念して新たに「研究サロン」を設けます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 趣旨：学会員が自らの研究の関心に沿うサロンに所属し、研究の交流と発展・深化をはかる。 2. 運営：各サロンは所属する会員によって自主的に運営する。発足時の暫定的な連絡・世話係として理事等を各 1 名配置する。 3. 発足：第 10 回大会 2 日目、24 日 13 時に受付前ロビーに集合した学会員によって発足する。 4. 分野：暫定的に以下の分野を設置、名称や内容は所属する会員によって検討する。複数のサロンに所属することも可能である。 <ul style="list-style-type: none"> A 楽器と音楽表現 (暫定的世話係；北山) B 発声と音楽表現 (暫定的世話係；後藤) C 作曲技法と音楽表現 (暫定的世話係；小畑) D 身体と音楽表現 (暫定的世話係；土門) E 音楽表現と社会 (暫定的世話係；杉江)
--

(8) 第 11 回大会について

杉江淑子事務局長より、第 11 回大会が岩手県盛岡市にて開催される旨の報告があり承認された。次回大会実行委員長（予定）の佐々木正利会員（岩手大学）より大会案内があった。（本誌 p.24 の関連記事を参照ください。）

- ・ 期日：2013 年 6 月 8 日（土）～9 日（日）
- ・ 会場：盛岡市民文化ホール&いわて県民情報交流センターアイーナ
- ・ 愛称：イーハトーヴ大会
- ・ 実行委員長（予定）：佐々木正利

(9) その他 なし

5. 閉会の辞

杉江事務局長により、スムーズな総会の進行に対して、会員への謝辞が述べられ、17 時 00 分に閉会した。

学会設立 10 周年を記念して、「研究サロン」制度が発足しました (2012 年度総会報告 p.15 参照)。

第 10 回 (Blue Valley) 大会 2 日目の 13 時、会場受け付け前ロビーに、各分野の暫定的世話係が表札を掲げて立ち、関心のある分野に会員が集合するという形でのスタートでした。具体的テーマを定めてダッシュの勢いでスタートを切ったサロンもあれば、ゆるやか〜なスタートを切ったサロン、スタート前の準備体操をゆっくりやりましょうというサロン・・・とさまざまです。「研究部会」などと硬い名称にせず、「サロン」としたのは、まさにこの自由度の高さ、幅の広さを大切にしたいとの願いからです。

以下には、各分野の状況を暫定的世話係から報告するとともに、各連絡先をお知らせします。Blue Valley 大会に参加できなかった方や 2 日目 13 時に集合できなかった方も、ご関心の分野にぜひご連絡ください。

「楽器と音楽表現」

このサロンは、ピアノグループと管弦打楽器グループの 2 つが立ち上がりました。連絡世話役は、ピアノグループが市野啓子さん (yichino@fantasy.plala.or.jp)、管弦打楽器グループが長谷川正規さん (hasegawa@juen.ac.jp) です。

ピアノグループでは、具体的なテーマも挙がり、呼びかけが行われています。次頁下段の呼びかけをご覧ください。もちろん、ピアノグループにおいてもその他にさまざまなテーマが提案されることを期待しています。

管弦打楽器グループは、①とりあえず全員に名前と連絡先 (メールアドレス) を知らせて個々の連絡も取れるようにしたうえで、②タイミングを見計らって、一斉メールで日にちを相談し、③勉強会 (まずはフリートーキングのような形) を開催する、といった進め方を考えています。

なお、それ以外の器楽分野に関してのご連絡は、暫定的世話係の北山までお願いします。

(北山敦康 eeakita@ipc.shizuoka.ac.jp)

「発声と音楽表現」

山梨大会でサロンの名簿に名前を連ねていただいた方など約 20 名に宛てて、7 月初旬、「立ち上げ」のメールを発信しました。その直後、何通かのお問い合わせ、参加のご承認、ご発言等のメールをいただきましたが、このところ少し通信が途絶えている

状態です。

かくいう私は作曲が専門で、人前で歌ったり、大きな声を出すという経験がほとんどない人間。それなのになぜ暫定的世話係になったかという、理事会でサロン創設が決まった席に、たまたま声楽関係の方が一人もおられなかったという理由です。ですから、できるだけ早い時期に然るべき方に役割を引き渡すべきと考えておりますが、ともかくも「始める」ことが大切と「メール連絡網」のようなものを作った次第です。参加ご希望、歌や発声に関して興味深い話題、あるいは今後の進め方についてのご提案がありましたら、ぜひ暫定的世話係の後藤丹までご連絡をお願いいたします。

(後藤 丹 goto@juen.ac.jp)

「作曲技法と音楽表現」

このサロンの参加者は現在のところ 8 名です。ゆったりと、情報交換 (それぞれが関心を持っていることの紹介) を行うことからスタートし、それが共同研究に発展すればいいのではないかとこの点でコンセンサスを得ています。暫定的世話人といたしましてはそういう方向性が生まれてきたとき、中心になっていただく方に責任者をお願いすることにしたいとゆるく考えています。それまでの連絡は暫定的世話係の小畑までお願いします。

(小畑郁男 kobata081208@gmail.com)

「身体と音楽表現」

この分野に対する期待はとても広い領域に及んでいて、例えばミュージカル (オペレッタ) 活動の情報交換を希望される方、舞踊における音楽の役割や意味を考えたい方、さらには音楽医学分野での学びや発達過程での身体機能の変化についての情報交換を期待される方など様々でした。あまり広い領域だと共同研究の足掛かりになり難いのではないかと感じています。

そこで、例年のように研究発表が行われているミュージカル活動等の情報交換を足掛かりにして、より効果的な指導の方向性を模索できればと考えていますので、今年度はこの分野に関心がある方を中心にしてサロンを形成させて頂きたいと思っております。ご賛同下さる参加者相互の連絡が出来るよう、暫定的世話係の土門までメールをお願い致します。

(土門裕之 domon@takushoku-hc.ac.jp)

「音楽表現と社会」

このサロンには大会当日、8名の方が参加を申し出られました。演奏や作曲といった具体的な表現分野に関心を持ちつつ、土台として、あるいは背景として社会との関係を考えてみたいという人、このサロンそのものを音楽表現に関わる者が集う、まさに「社会」としてとらえ、そこから何が生まれるかを楽しみたい人など、それぞれの方の思いもさまざまであろうと思われます。まずは、多様なメンバーによる情報交換から始めたいと思います。この分野にご関心のある方、どのような進め方がよいかも含め、ご意見・ご連絡をお寄せください。連絡先は、当分の間、暫定的世話係の杉江までお願いします。

(杉江淑子 norioka@edu.shiga-u.ac.jp)

「ソルフェージュを考える—これでいいのかソルフェージュ?—」

ソルフェージュといえば「むずかしいもの」、「つ

~~~~~ 研究サロン「楽器と音楽表現」 テーマ：「ピアノ演奏におけるテクニックと音楽表現の連関」 ~~~~~

是非ご参加下さい！

趣旨：「言いたいことを伝えるためのテクニックがない」とか、「テクニックはあるけど、ただ弾いているだけ」といった言いまわしは、私たちの間で当たり前のように聞かれます。しかし一方で、テクニックと表現は不可分であることを皆なんとなく感じてしまいます。この「なんとなく感じている」ことを考察してみよう、というのが趣旨です。現在のところ、下記のような部門を考えています。他にもご自由に部門をご開設ください。そして、部門かけもちもOKです。大会時を中心に、メールも活用し、部門内で、さらに部門を越えて交流を行い、考察を深めていきます。山梨大会での初呼びかけに対し、参加を表明して下さいました会員がすでにいらっしゃいます。皆さま、どうぞご参加下さい。「ちょっと覗いてみる」も歓迎いたします。ともかく、何も固まっておられません。模索しつつのスタートをご一緒していただだけませんか？そして、内容はもとより、進め方についても率直なご意見、お考えをお寄せ下さい。

連絡・問合せ：0561-39-0926 / yichino@fantasy.plala.or.jp (市野) お願いします。

【部門1】「テクニックと音楽表現の関係」について考えを交換する。

<補足説明> たとえば、以下のような視点が考えられます。

・‘テクニック’と‘音楽表現’という2分法その

まらないもの」というイメージが強いのではないのでしょうか。そのイメージはどのようにして形成されるかという点、どうも大学入試の聴音や初見視唱などに原因がありそうです。さらに、大学によっては入学後聴音の成績次第でグループに分けられ、優秀なクラスの方は優越感に浸り、そうでない者は「あいつらなんて少しも音楽的ではない」と揶揄するという、なんとも非建設的な応酬があったりするようです。ところでソルフェージュとは本来はどうあるべきものなのでしょう。理念がきちんと確立された指導は全体の何%くらいあるのでしょうか。

大会会場での呼びかけには4名の方が答えて下さいましたが、まだその方たちにも方向性を示せていません。これから少しずつ固めていきたいと思っています。まずは指導者養成レベルのソルフェージュ教育の問題点について、ご意見を暫定的世話係中村隆夫までお寄せ下さい。 (中村隆夫 tknkmr@ksn.biglobe.ne.jp)

呼びかけ人：市野啓子、大島晶子、安田 香

ものを問う。

・自分はこのようにしてテクニックと表現を有機的に結合してきた、あるいは両者の有機的結合を目指し、こうした指導を行っている、といった報告をする(次の「部門2」に通じるが、ここでは、研究対象を『練習曲集』に限定しない)。

【部門2】歴代の『練習曲集』から対象を選定し、実践的に考察する。

作曲者の意図を考察しつつ、テクニックと表現を結ぶ自分なりのメソッド(練習法・指導法など)を検証する。また、自身のやり方を検証するうちに、作曲者の意図が見えてくるかもしれない。曲集を限定せず、ある作曲家を対象とする、あるいは、ある時代を対象とする、というのも興味深い。(なお、本部門では、以下の練習曲集を研究したいとお申し出がすでに届いています：ツェルニー30番、ドビュッシーの『練習曲集』、ワイルドとカプースチンの『練習曲集』)

注：『練習曲(集)』の定義は予めいたしません。study(仏：étude; 独：Etüde, Studie; 伊：studio)であれ、exercise(仏：exercice; 独：Übung; 伊：esercizio)であれ、あるいはこのような名称を持たずとも、ご本人が『練習曲(集)』だと判断すればOKです。

【部門3】練習曲に関する、また、広く本テーマに関わる先行研究を検証する。文献研究部門です。実践研究部門との交流が欠かせません。

【書籍紹介】

『松村禎三 作曲家の言葉』（春秋社 刊）について

阿部 亮太郎（作曲）

作曲家松村禎三氏（1929 ~ 2007）の文章を集めた本がこの7月に刊行された。簡単にご紹介したい。氏は京都に生まれ、作曲家を目指して上京するが、重い結核であることがわかり芸大に入ることができず、長い療養生活を強いられた。同世代の作曲家達が、最初期の代表作を含め、多くの作品を発表し始めていた頃、作曲活動の実質的なスタートを切ることとなる。当時の日本の作曲界において、最新の欧米の情報に傾斜する風潮が顕著となる中で、「アジアの文化」を探求していた氏の場合、その道は苛烈であったと思われる。1960年代半ばから、独自の発想と、その徹底的な吟味の果てにしか生まれえない圧倒的な表現力を持った大作を数年おきに次々に発表した。轟々たる音響、輝かしい音色による、生命力にあふれた《交響曲第一番》の初演（1965年）の折には、作曲家の八村義夫によれば、「誰もがすごい音楽だと言った」そうである。その後、作品は、より内省的で、透徹したものを感じさせる音楽に変わっていった。また60年代末に「邦楽の古典に詣でるつもり」で作曲された《詩曲一番》を皮切りに、最晩年まで数曲の邦楽器の作品を作曲している。1993年には、13年の月日をかけて完成させたオペラ《沈黙》（原作：遠藤周作）が初演された。

この本の内容は、自らの作品のこと、音楽のこと、創作観のほか、俳句について、作曲家として関わった映画や演劇について、能について、生い立ち、旅先での雑感など、幅広い内容となっている。

中には、核問題、原発問題を考察しながら、地球を再び恒久的な安全の状態に戻すための可能性を論じた講演なども含まれている。ちなみに、氏は結核で長期療養を余儀なくなされた際に、早夫^{ひでりお}の号で多数の俳句を詠んでいる。若き日の寺山修司と競って俳句の賞を受賞し、後に深夜叢書社から句集が上梓されている。

この本の文章全般にわたって深い死生観がうかがわれ、また単に、知識が豊富であったり、分野横断的であったり、ということとは別次元の感性が伝わってくる。それは、さまざまな情報を第三者になって分析的に読むのではなく、つねに自分を棚上げせずにものごとを吟味して納得するような関わり方である。そのような姿勢は、単なる技法や戦略のようなものではなく、もっとその前にある「生きる姿勢」であることが、文章を通して実感されるのではないだろうか。だからこそ、作品にも言葉にも力があるということが、すでに松村作品をよく知る読者にとっても、あらためて納得されることであろう。

20世紀後半、日本では非常にすぐれた作曲家が多く活躍したが、個々の作品、作曲家の吟味を抜きに「音楽史」が独り歩きしている感もある。音楽史上の位置づけなどを考える前に、まず、一人の作曲家について、いくつもの作家論が書かれなければいけない、そのような作曲家を知る機会としても、重要な本である。

【譜例】松村禎三「交響曲第2番」（部分）

The image displays two systems of musical notation for a portion of Shinjiro Matsuura's Symphony No. 2. The notation is written on five-line staves, featuring various note values, rests, and dynamic markings such as *p*, *f*, *rit.*, *cresc.*, and *mf*. The score includes complex rhythmic patterns and articulation marks, typical of Matsuura's style. The first system shows a melodic line with a *p* marking and a *rit.* marking, followed by a *f* marking and a *cresc.* marking. The second system continues the melodic line with a *mf* marking and a *cresc.* marking.

新入会員紹介

個人情報に付き削除

日本音楽表現学会後援コンサート等情報

- 山崎わかなさん **山崎わかなピアノリサイタル**
日 時：2012年8月3日（金）
会 場：札幌 ザ・ルーテルホール
趣 旨：クラシック音楽の普及、文化貢献
主な内容：スカララッティ、クララ・シューマン、ベートーヴェン、シューマン
連絡先：山崎わかな wknymzk@googlemail.com
- 赤松林太郎さん **Ensemble Quattoro Foglie 室内楽演奏会**
～被災地にピアノを届けるネットワーク チャリティー公演～
日 時：2012年8月5日（日） 14：00 開演
会 場：雑司が谷音楽堂
主な内容：ハイドン「ピアノ三重奏曲」ト長調 Hob.XV:25「ハンガリー風」、シューマン
ピアノ五重奏曲 変ホ長調 Op.44 他
料 金：入場無料
主 催：Emsemble Quattoro Foglie
共 催：被災地にピアノを届けるネットワーク
- 赤松林太郎さん **赤松林太郎ピアノリサイタル 2012 [釧路公演]**
日 時：2012年9月16日（日） 14：00 開演
会 場：北海道立釧路芸術館 アートホール
主な内容：ドビュッシー「ベルガマスク組曲」「喜びの島」他、ピアソラ（山本京子編曲）
「ソレダード（孤独）」「エスクアロ（鮫）」「リベルタンゴ」他
料 金：前売一般¥2,500／前売高校生以下¥2,000／当日¥3,000
主 催：エルム楽器釧路支店
- 深井尚子さん **メビウス トリオ 東京 デビューリサイタル**
期日/会場：2012年9月22日（土・祝） 釧路浦見ホール、
10月21日（日） 東京代々木の森リプロホール、
11月13日（火） 札幌時計台ホール
趣 旨：深井尚子（ピアノ）を中心としたピアノトリオを結成し、ピアノトリオを定
期的に演奏していくデビューリサイタル
主な内容：シューマン、ブラームスのピアノトリオ第1番
- 赤松林太郎さん **都民の日・東日本大震災復興支援《被災地にピアノを届けるネットワーク》**
ーチャリティーコンサート 2012ー
日 時：2012年10月1日（月） 14：00 開演
会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟小ホール
主な内容：ガーシュインとピアソラ
演 奏：平山慎一郎（東京フィル）&赤松林太郎
料 金：入場無料
主 催：東京バロックアカデミー
共 催：被災地にピアノを届けるネットワーク
- 牛渡克之さん **牛渡克之ユーフォニアムリサイタル Vol.8**
日 時：2012年10月20日（土）19:00 開演

会 場：JT アートホールアフィニス
趣 旨：毎年1回研鑽の成果を発表する。
主要内容：カール・ジェンキンス「協奏曲」、ロビン・デューハースト「Portraits」(世界初演)

大竹紀子さん

大竹紀子ピアノ・リサイタル

日 時：2012年12月8日(土)19:00開演
会 場：サントリーホール ブルーローズ(小ホール)
趣 旨：現代の音楽を中心としたピアノ独奏による演奏会。ジャズをモチーフにした作品、トワイピアノやコンピュータを用いた作品、ピアノ内部奏法などで新しい表現を探求する。
主要内容：ヒンデミット「組曲1922年」、ヒナステラ「クレオール舞曲の組曲」、菅野由弘「(新作初演)」、カウエル「エオリアン・ハープ」、ガーシュウィン「前奏曲集」他
連絡先：東京コンサーツ 03-3226-9755

会員によるCDリリース

安藤政輝さん

安藤政輝 宮城道雄を弾く3』VZCG-768

内 容：「退任記念演奏会」(2012年3月8日於：東京藝術大学奏楽堂)ライブ録音
収録曲：1.《道 灌》 2.《編曲松竹梅》 3.《壺越調箏協奏曲》
発 売：公益財団法人 日本伝統文化振興財団
定 価：3,150円(税込)
発 売 日：2012年9月5日
購入方法：メールで申し込み可 kororinshan@gmail.com

会員による新刊

後藤 丹さん

ジョプリン ピアノ名曲集

校訂／解説：後藤 丹
サ イ ズ：菊倍版112頁
出 版 社：全音楽譜出版社
価 格：1800円+税
出 版 日：2012年4月15日
I S B N：978-4-11-1260021-8

教員公募

静岡大学教育学部

職名・人員：講師又は助教 1名
専攻分野：音楽教育(管楽器, 打楽器, 和楽器のいずれかが指導できること)
所 属：音楽教育講座
詳 細：<http://www.ed.shizuoka.ac.jp/289/>
締 切：2012年9月14日(金)(必着)

岐阜聖徳学園大学教育学部

職 名：准教授又は専任講師 1名
専門分野：鍵盤楽器演奏

担当科目：鍵盤楽器演奏（伴奏法を含む）、初等音楽、等
締切：2012年8月31日（金）必着
詳細：<http://www.shotoku.ac.jp>,
http://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekJorDetail?fn=3&id=D112071464&ln_jor=0

三重大学教育学部

職名：准教授または講師
専門分野：器楽（ピアノ）
締切：2012年9月18日（火）（必着）
詳細：http://www.mie-u.ac.jp/adoption/pdf/20120717_ongaku.pdf

福井大学教育地域科学部

職名：准教授 または 講師
専門分野：声楽
締切：2012年9月28日（金）必着
詳細：http://www.u-fukui.ac.jp/cont_about/recruit/recruit/seiraku.html

事務局からの重要なお願いとお知らせ

I 重要なお願い

1. 『会員名簿』発行：〔会員情報フォーム〕への登録をお願いします。—全会員の方へ・重要！—

本学会では『会員名簿』を2年ごとに発行しており、今年度はその改訂の年に当たります。この間、会員数が大幅に増加しましたので、今回の改訂では『会員名簿』のスタイルを大幅に変更して、より使いやすい形で作成することになりました。

これを行うにあたり、会員の皆様の利便性を考慮して、ウェブサイト〔会員情報フォーム〕を作成いたしました。このフォームに皆様の登録情報を入力していただくことで、正確な名簿が作成できるとともに、事務局に登録されている住所等の変更手続きも随時行うことができるようになりました。つきましては、

本年9月30日（日）までに、本学会のホームページのリンクから〔会員情報フォーム〕での登録をお済ませくださいますようお願い申し上げます。

今回はこの〔会員情報フォーム〕を使つての初めての名簿作成ですので、会員の皆様全員に登録していただく必要があります。今回登録していただければ、それ以降は登録内容に変更があったときに適宜入力していただくだけになります。

なお、印刷発行される『会員名簿』の掲載必須項目は「氏名」と「専門分野」です。それ以外の項目については、フォーム上で公開の可否を回答していただき、公開可の項目のみを『会

員名簿』に掲載します。ただし、名簿としての機能を果たすために、連絡先住所（自宅または勤務先等）、電話番号、e-mail等、差し支えない範囲で、できるかぎり公開をお願いします。

2. 年会費の納入について

- ・年会費未納の方には今回ニューズレターとともに、「郵便振込票」を同封しています。過年度分が未納の方の振替票には、未納年度に印を入れてあります。行き違いご送金済みの場合はご容赦ください。ご不明の点がありましたら、事務局までお問い合わせください。
- ・年会費（4月～3月）は以下の通りです。
正会員 5,000円
家族会員（二親等以内）4,000円
学生会員（学部生）3,000円
- ・学会は皆様方の年会費で運営されています。機関誌の発行、大会の開催など、さまざまな活動に支障をきたすことのないよう、速やかな納入をお願いいたします。
- ・納入は必ず郵便振替でお願いします。なお、学会では原則として領収書発行はいたしませんので、無意識滞納対策の一助として、納入後はただちに、「振替払込請求書兼受領証」（ATMご利用の場合は「ご利用明細票」）に、納入年度をメモの上、保存くださいますことをお勧めいたします。

II お知らせ

1. ニューズレターへの投稿

ニューズレターは会員の交流の場です。音楽表現に関するご意見など、ご寄稿ください。

- ・研究ノート、随想など：図表等を含めて刷り上がり1頁以内
- ・コンサート案内：学会後援（申請については後述）のものを掲載します。
- ・新刊案内・CD/DVD リリース：会員による刊行物の紹介を行います。購入方法なども含めてお知らせください。
- ・その他：所属されている他学会の情報などもお寄せください。
- ・投稿受付は随時、ワードの添付書類で学会事務局宛にお願いします。
music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

2. 東日本大震災復興支援

「書籍等青空市場」への出店随時募集

ニューズレター上に開設しております「書籍等青空市場」への出店を随時募集しています。ニューズレター次号発行は11月末日です。自宅に眠る音楽関係書籍、CD等を会員の間で回転させ、売上金を復興支援として寄付しませんか？

なお、これまでに青空市場による売上金2,000円及びその他会員（2011年度理事会構成員）からの寄付金40,000円を「中央共同募金会東日本震

災義援金」として日本音楽表現学会名で寄付しました。

3. 『音楽表現学』バックナンバー購入方法

メール等で事務局までお申し込みください。以下の代金は、到着後郵便振替でお願いします。

会員価格：Vol.2～Vol.3は1部1500円+送料

Vol.4～Vol.8は1部3000円+送料

一般価格：Vol.2～Vol.3は1部3000円+送料

Vol.4～Vol.9は1部3500円+送料

大学図書館などへの納入については事務局にお問い合わせください。なお、Vol.1は残部がありません。

4. 学会の会員サポート制度をご活用下さい。

- ・機関誌『音楽表現学』への投稿
『音楽表現学』に論文が掲載されると、大学などでは「査読付学術論文」としての評価を受けます。年度末などに業績の報告をされる際には、その旨をお記し下さい。
- ・大会の口頭発表
- ・コンサートの後援とご案内（申請方式が変わりました。次項をご覧ください。）

各種書式

1. 「入会申込書」

<p>入 会 申 込 書</p> <p>日本音楽表現学会に入会を申し込みます。</p> <p style="text-align: right;">年 月 日</p> <p>氏 名 (ふりがな)： 専門分野： 所 属： 自宅住所：〒 連絡先：(上記と異なる場合) 〒 連絡先 Tel.： 連絡先 Fax.： e-mail： 推薦者名 (学会員・1名) 音楽表現学会に期待されること。ご意見等：</p>	<p>[備考]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「入会申込書」を送付いただきましたら、事務局から年会費納入のための郵便振替票を送ります。年会費ご入金の確認をもって手続きを進め、入会承認後、「入会承認のお知らせ」文書をお手元にお届けします。 ・入会申込書はHPからもダウンロードできます。 ・学会からの連絡（印刷物お届けなど）は、ご記入いただいた「連絡先」に届けます。 ・お届けいただいた情報は、事務局で厳重に管理し、学会事務以外の使用目的には供しません。
--	---

2. 「後援願」〔コンサート等後援・協賛申請フォーム〕にて申請ください。

「後援願」は、本学会ホームページのリンクから〔コンサート等後援・協賛申請フォーム〕に必要事項を記入して申請していただくことになりました。ご協力よろしく願いいたします。

3. その他 他の書式が必要なときには、事務局へお申し出下さい。

日本音楽表現学会第11回（イーハトーヴ）大会のご案内

- ・期日：2013年6月8日（土）～9日（日）
- ・会場：盛岡市民文化ホール（JR盛岡駅西口「盛岡地域交流センター マリオス」内）
および
いわて県民情報交流センターアイーナ（盛岡市民文化ホールに隣接）
- ・会場へのアクセス

【東北新幹線・秋田新幹線】

- 東京－盛岡：2時間21分（はやて）
- 八戸－盛岡：29分（はやて）
- 秋田－盛岡：1時間26分（こまち）

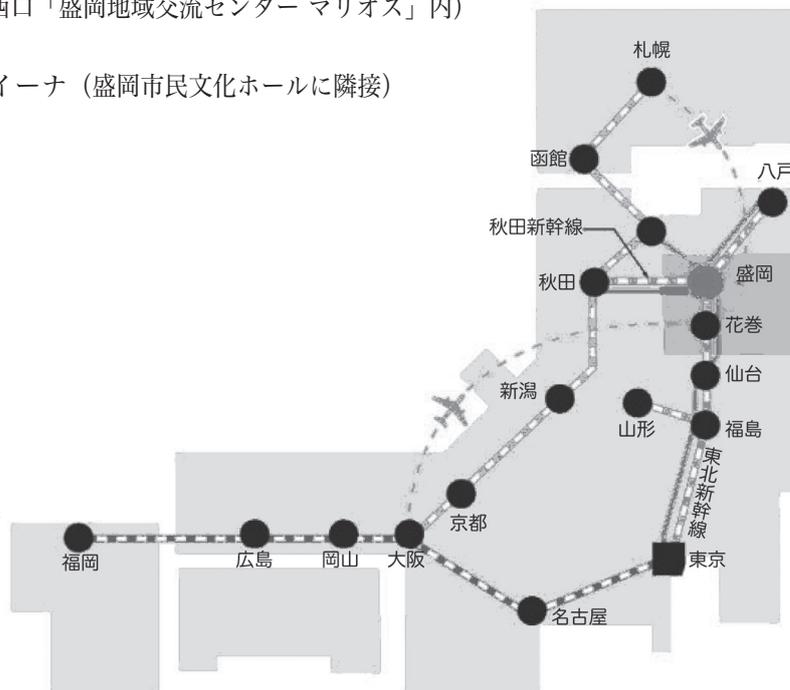
【空路/花巻空港（JAL）】

- 大阪（伊丹）－花巻：1時間30分
- 札幌（新千歳）－花巻：55分

【花巻空港－盛岡駅】岩手県交通バス 50分

【東北自動車道】

- 青森IC－盛岡IC：2時間
- 秋田中央IC－盛岡IC：2時間30分
- 仙台宮城IC－盛岡IC：2時間15分



2012年度役員一覧	編集後記
<p>会 長： 安藤 政輝 副 会 長： 北山 敦康 事務局 長： 杉江 淑子 理 事： 奥 忍（事務局担当） 後藤 丹（総務担当） 小畑 郁男（会計担当） 吉永 誠吾（会計担当）</p> <p>編集委員会： 委員長 伊野 義博 副委員長 菅 道子 委員 安藤 珠希 小野 亮祐 河本 洋一 木下 千代</p> <p>選挙管理委員会： 委員長 坂東 肇 委員 中 磯子 井上 朋子 監 事： 海津 幸子 谷口 雄資 会長諮問会議：草下 實 佐々木 正利 中村 隆夫 安田 香 参事：（会長付）似内 裕美子 松井 萌 （事務局長付）近藤 晶子 鳶 晴子 （会計担当理事付）袴田 和泉</p>	<p>日本中、暑い盛りかと思えます。会員の皆様、お元気で過ごしてでしょうか。</p> <p>安藤政輝会長就任後、初めてお配りするニューズレターです。6月に山梨大学で開催された第10回（Blue Valley）大会の特集を組み、貴重なスナップ写真にも多くの頁を割きました。藤原嘉文実行委員長をはじめとするスタッフの皆様、本当にありがとうございました。</p> <p>学会設立から10年。個人的に一番嬉しいのは、この学会を通じて全国各地に多くの素晴らしい友人ができたこと。この学会で出会う人たちが、例外なく親切で優しい方ばかりなのが不思議です。ひょっとして普段、性格的に問題のある人でも、この「善意の学会」に来られると心が洗われて変化するのでしょうか？また、宮本賢二朗さんが書いておられるように「柔軟性と創造性に富んだ」学会でもあります。活動が始まりつつある「サロン」も楽しみです。</p> <p>今回から「見習い」としてニューズレター編集のお手伝いをするようになりました。私も邪心を捨てて誠心誠意働く心づもりでおります。</p> <p style="text-align: right;">（後藤 <small>まこと</small> 丹）</p>